

後向き観察研究

「胃癌の臨床病理学的特徴と発育形式についての後方視的検討」

情報公開文書

患者さんへ

「胃がんの臨床病理学的特徴と発育形式
についての後方視的検討」

についてのご説明

2016年06月06日 第1版作成

1. はじめに

胃がんは日本人に特に多いがんの一つで、内視鏡検査は胃がんの診断や治療において欠かせないので重要な検査になっています。胃がんは大きく分けて早期胃がんと進行胃がんに分かれており、早期胃がんが時間をかけて進行胃がんへ成長していくことが明らかにされていますが、その過程については不明な点も未だ多く残されています。

今回私たちは、内視鏡検査で胃がんが見つかった際に、以前の内視鏡検査の画像と比較をすることで、胃がんの様々な特徴や発育形式について検討するためにこの研究を計画致しました。

2. 対象となる患者さん

2006年1月1日から2015年12月31日までの期間に札幌医科大学附属病院消化器・免疫・リウマチ内科において胃がんに対して治療をされた患者さん（285名）を対象としています。

3. この研究の内容

診療録（カルテ）から患者さんの性別や年齢、発生した胃がんの部位や組織型などの情報を収集し、研究に用います。研究は札幌医科大学消化器内科学講座で行います。なお、この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

4. 個人情報取扱いについて

本研究では個人情報の保護のため、個人を特定できる情報は収集せず、データのデジタル化やデータファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。また、本研究の結果を公表（学会や論文等）する際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. この研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2006年1月1日から2015年12月31日までの期間に札幌医科大学附属病院消化器・免疫・リウマチ内科において胃がんに対して治療をされた患者さんの中で、この研究に診療情報を提供したくない方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

6. 研究期間について

病院長の承認日から2017年3月31日までの期間を予定しています。

7. 医学上の貢献

本研究によって、胃がんの様々な特徴や発育形式について、新たな知見を得ることが出来る可能性があります。

8. 問い合わせ先

研究責任者	札幌医科大学 消化器内科学講座 講師 山下 健太郎
研究分担者	札幌医科大学 消化器・免疫・リウマチ内科 診療医 飯田 智哉
連絡先	電話：011-611-2111（内線 3211）教室
対応時間	平日 9～17時（平日日中のみの対応となります）